

# 品川支部

令和七年8月1日発行  
〒141-0022  
品川区東五反田1-8-5  
Tel. 3442-7075

## 8月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

## 年祭まで、半年で 一度はおちば帰り

百四十年祭来年一月二十六日まで半年を切りました  
本部では年祭その日までたくさんの方のおちば帰りを推進しております  
本部に人を案内される方向けに「神殿案内の手引き」を新たに作成  
初めての方を案内させて頂く折にも先に一読しておくとも便利です  
十月の大祭期間からは、主に土日の十時から三時までの時間で年祭に  
向け、南右二棟で教祖ゆかりの品などを中心にした[特別展示]を開催いた  
します  
又、万博見学を利用するなど工夫して多くの方をお連れいたしましょう



南右二棟:参考館隣

10月25日(土)・26日(日)  
11月8日(土)・9日(日)・15日(土)・16日(日)・22日  
(土)・23日(祝)・24日(月)・25日(火)・26日(水)・29日  
(土)・30日(日)  
12月6日(土)・7日(日)・13日(土)・14日(日)・20日  
(土)・21日(日)・25日(木)・26日(金)  
※毎月26日は午後1時より開催、10月25日は午  
前中のみ開催となります



万博とブルーインパルス

## ☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会に替え暑氣払いになります  
八月九日(土)午後六時～  
豊英分教会三階ホールにてどなたでも  
参加頂けます(会費五百円)お近くの教  
会に申し出下さい

・支部例会

三ツ木分教会会場

八月三十日(土)十一時から

※二頁に詳細掲載

教区百四十年祭活動「みんなでのきしん」

大井在宅介護センターひのきしん

二十九日九時半から

神名流し、ゴミ拾いひのきしん

今月はありませんでご注意下さい

・教区ひのきしん

今月は有りません

## ☆教務支庁からのお知らせ

・天理教教会所在地録の精度向上に向け  
支部内教会リストの更新のため、現時点の確認  
をお願いいたします  
各地区の地区長教会にリストが渡され、担当地  
区の確認をしています  
変更が無い教会も十九日までの提出が必要にな  
りますのでご協力お願いいたします

・本部「神殿案内の手引き」

本部に人を案内される方向けに  
「神殿案内の手引き」が発刊されまし  
た一部二十円の小冊子ですが、知ら  
ないこともままある事が再認識できま  
す

・一れつ会申し込みについて

一れつ会の申し込み方法が変わりま  
した  
従来、直属と教区の届け承認が  
必要でしたが、今回より申し込み  
は教区の承認手続きが省略される  
事となりました 直接一れつ会に  
申し込みとなります

・少年ひのきしん隊

夏休み子供おちば帰り行事恒例参  
加の「少年ひのきしん隊」本部錬成会が  
一日から4日までの日程で行われます  
現在男子二十名女子十七名がカウ  
ンセラー二十四名とともに研修会を  
経験しています 支部の仲間も参加して  
いますので、期間中に会いましたら  
お声がけもお願いいたします

・学生担当委員会から

夏休み「真夏の勉強会」が今年も開  
催されます  
小中学生を対象に大学生中心に勉強  
を教えてください  
夏休みの宿題も解らないところ等、丁  
寧に教えてくれますので、勉強が苦手  
な子も楽しんで出来ます  
大学生達も十分な人数で教えてくれ  
ますので是非参加してみてください

拠点教会	6日号	13日号	27日号20号合併
日本橋	直送	直送	直送
本 荏	直送	直送	直送
南 泰	直送	直送	直送
三ツ木	直送	直送	直送
水豊田	直送	直送	直送

## 時報手配り八月予定

八月は全て郵送で二十  
日号は休刊で二十七日  
号と合併になります

# 品川支部例会

## 令和七年八月三十日 (土) 場所 三ツ木分教会

(品川区西品川3-19-12)

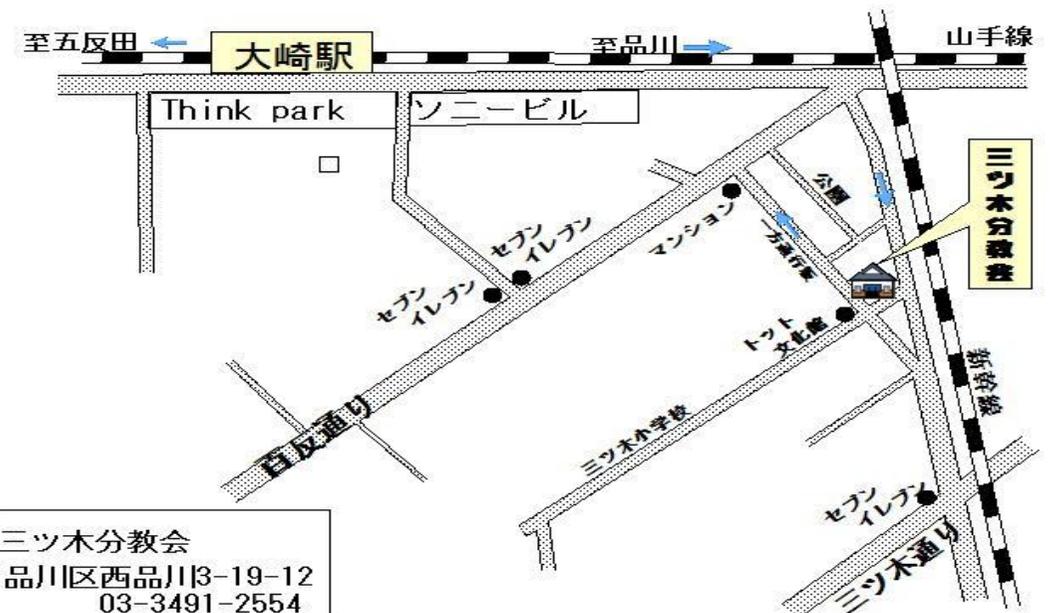
### 内容 座りづとめ よろづよ八首 八下目

### 支部連絡事項

### 当該山中教会長挨拶

### 昼食の用意頂いてます

## \*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)



目配り  
気配り、心配り



いよいよ教祖百四十年祭まで半年となりました。今日までのこの年祭期間、勇んで通られ実践された方にとっては、その成人の姿を教祖にお見せ出来る、待ち遠しいことだと思います。

また逆に私は、振り返ってみると浮き沈みがあり、結果として長続きしなかったり、諦めてしまったことばかりです。

一昨年の秋季大祭で真柱様が、教祖の道具衆として、教祖のお心に溶け込んで、素直に実行し、たすけ一条に励むよう、また諦めることなく丹精するよう、改めて「諭達」に込められた思いを述べられました。

また昨年元日に起きた地震に対して、成人の鈍さに対する親神様の残念、立腹だともお諭し下さいました。

まさにこのお言葉通り、一向に全く出来ていないと猛省するばかりです。そんな私を長年付かず離れず、温かい目で愛情もって接し続けてくださった方が、この年祭期間中に相次いでお出直しされました。

そのお一人は、元品川支部長、日本橋大教会の齋藤衛彦先生です。

子供おちばがえりの少年ひのきしん隊でお世話になってから四十年ほど、甥っ子さんご夫婦と大学時代に親しくしていたご縁も相まって、何かにつけてお会いすると優しい眼差しで声をかけて頂き、困った時は広い見地と深い見識で相談にのって頂きました。

また和歌山の叔母、ブラジルの叔父、大阪の従兄弟が出直したのですが、未だに独り身の私を心配して、減多に会う機会なかったのですが、間接的にでも、常に私の身体と将来を気にかけてくださいました。

さらに修養科の時、教養掛としてお世話いただき、その後も公私ともに師として仰いでいた先生が、五月に出直されました。

最近はおちばがえりすると、祖霊殿と豊田山舎でおかけたいただいたご恩に感謝して、少しでも期待に応え、お喜びいただけたらなあ、と、在りし日の想いに馳せ巡らせ参拝しております。

この方々に共通するのは、笑顔であたたかい言葉、労いの言葉をかけてくださる、我が事のように心配してくだされたことです。

教祖の逸話を紐解くと、ねぎらい、いたわりの言葉を使う、やさしい心に関すること。逸話が一番多く、これが教祖が常日頃、人々に接しられた、ひながたであり、教祖が求められてる心や態度です。まさに私がお世話になっ方々は、このひながたを

素直に行っておられたので

蒲生の初代安井藤市先生は、入信前に初めて甲賀大教会を参拝した時、見知らずの者なのに、皆さんが笑顔で優しく温かく迎えてくれたのが嬉しかったのが信仰を始める動機だったと聞いております。また今の大教会長様は、常々、人ごを我がことに、と仰っております。

直ぐには形や数字と云って成果は見れないかもしれませんが、日々の相手に対する接し方ひとつでも、教祖のひながたを実践することには変わりないと思います。

少しは気を楽にして残り半年勇んで通り、お世話になった方々のご恩に伝えたいと思いを繋いでまいりたいと思っております。

三ツ木分教会会長  
山中清明